彼方【かなた】

校長通信
H25.2.12
Vol.41

【伝えたい！】

「がんばろう！石巻」の文字が心に突き刺さりました。三・一一から早二年の月日が流れようとしています。先週二月九日、十日にかけて、被災地を訪れました。さすがにガレキも片付けられ、私が震災三ヶ月後に訪ねたときよりもはるかに改善されていましたが、それでも復興というにはほど遠い感じでした。ニュースでは、国会議員の方々も沢山視察されたようですが、地元の方がおっしゃっていた「命が助かってよかった！と思って過ごす時期は終わりました。これからどう生きていくかを考えて、一日一日を送っています。必ず明日はよくなると信じて頑張ってます。」という言葉が耳から離れません。本当にそれぞれの立場でできることを続けていかなければならないと思いました。

当日は、南三陸町の防災対策庁舎を皮切りに仮設のさんさん商店街、大川小学校、石巻の門脇地区を巡って、帰ってきました。犠牲になった大川小学校の子どもたちや先生方をはじめ、東北の各地で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りして、手を合わさせていただきました。

千年に一度と言われたこの大災害をなんとしても乗り越え、未来につながなければならない、そんな思いを新たにする二日間となりました。私たち教職員ができることは、人の痛みを分かり、助け合える生徒に育てていくことだと思います。学校生活が普通に送ることができることに感謝し、隣の人を大切にし、思いやれる生徒の育成に尽力しなければならないと心に誓いました。

二学期末に羽場教務主任が全校生徒を対象に「千年後の子どもたちのために今できること」というテーマで安全集会を行ったのを思い出します。シーンと静まりかえった体育館のスクリーンに流れるテロップに目をやりながら一人一人が何をしなければならないかを考えました。でも時間が過ぎると日常に流されてしまっている自分がそこにいるのも事実です。風化させないようにと思いながらときどきは、自分の見聞きしたことを伝えていきたいと思います。

千年に一度の災害では一瞬の判断、決断、行動で変わってきます。自ら適切に判断し、助け合える生徒、学校教育目標「自主貢献」を体現でいる地域の人材として生き抜ける力を身につけさせたいと強く願っています。

「がんばろう！石巻」「伝えきれないありがとう」「来る年はきっといいはず」さまざまなコピーがいろいろなところで目に付きました。このコピーが本当に必要なくなる日が来ること、意識せずに語り継がれる日が来ることを願って、子どもたちに伝えていきたいと思います。